



CHARTERED SEPT.11.1953

Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO YAMATE

YAMATE YMCA, 2-18-12, NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO TEL. 03-3202-0321 FAX.03-3202-0329

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-18-12 山手YMCA内

2019



2019 - 20 会長主題

もっと地元を身近に感じようぜ！

あずさ部長	赤羽美栄子(松本)	「あなたの入会時の“ときめき”と多くの経験をワイズのために」
東日本区理事	山田敏明(十勝)	「勇気ある変革、愛ある行動！」
アジア太平洋地域会長	田中博之(東京多摩みなみ)	“ Action! ” 「アクション！」
国際会長	Jennifer Jones(オーストラリア)	“ Building today for a better tomorrow ” 「より良い明日のために今日を築く」

会長 浅羽俊一郎 / 副会長 尾内昌吉 / 書記 尾内昌吉 / 会計 中村孝誠・金本伸二郎
 直前会長 浅羽俊一郎 / ブリテン 功能文夫 / 担当主事 星住秀一

2019年 8月 例会
 <CSの月>

と き 8月24日(土) 11:30-15:30
 と ころ 東京YMCA東陽町センター

東京YMCA 夏祭り

主催：東京YMCA夏祭り実行委員会
 共催：在京ワイズメンズクラブ
 事務局：東京YMCA会員部

山手クラブとしての例会は行わず、
 夏祭りに合流します。

ワイズメンズクラブ モットー

『 強い義務感をもとう
 義務はすべての権利に伴う 』

“ To acknowledge the duty
 that accompanies every right ”

今月の聖句

今お前はエジプトというあの折れかけの葦の杖を頼みにしているが、それはだれでも寄りかかる者の手を刺し貫くだけだ。エジプトの王ファラオは、自分を頼みとするすべての者にとってそのようになる。

イザヤ 36章6節

8月 HAPPY BIRTHDAY

.....

会費の納入は、会計(中村君)への納入または
 下記銀行口座への振込みをお願いします。
 三菱UFJ銀行 高田馬場駅前支店
 普通 3548431 「東京山手ワイズメンズクラブ」

7月報告

会員在籍数		11名
例会出席者	メ ン	9名
	メ ネット	1名
会員出席率		82%
ゲスト・ビジター		8名
		合計 17名
ニコニコ	7,150円(累計 7,150円)	
B F	国内切手—g	外国切手—g



7月例会 報告

と き：7月16日(火) 15:30-17:30

ところ：山手センター 101号室

出席者：浅羽、上妻、飯島(愛)、飯野、
尾内、尾内(規) 功能、中村、
星住 9名

ゲスト・ビジター：

山添 仰さん(発題者・東京YMCA本部事務局長)

小野崇之さん(西村隆夫さん友人)

福島多恵子さん(元 目黒)

篠原文恵さん(西 会長)

本川悦子さん(ユース事業主査、西)

大輪匡史さん(武蔵野多摩 会長)

菰渕光彦さん(部エクステンション委員長・サンライズ)

小原史奈子さん(たんぼぼ) 8名

計17名

7月例会は「これからの東京YMCAを考える～会員の働きを中心に～」をテーマにして、東京YMCAの山添さんを発題者にお招きして話し合いました。幸いにも他クラブからもお集りいただいて賑やかな会になりました。

ハッピーバースデーは飯島愛子さんを祝いました。子犬を育てておられる一方で光風会という美術団体に属して工芸作品を楽しみながら作っておられるとのことでした。

そして話し合い。最初に浅羽会長から趣旨説明の後、山添さんの発題が20分行われ、それから、

4グループに分かれて50分間話し合いが行われて、最後に各グループの報告がありました。

○浅羽会長の趣旨説明

思えばYMCAは当初から地域社会の課題を自分たちの視点でとらえ、そこから活動を展開してきました。東京YMCAも今の都民の生活を見据えて、そこから事業を展開し、会員が関わることで、他団体に真似出来ない味を出していくのだろう、と私は思っています。世代を超えて会員も職員も会員運動について熱く楽しく語り合える文化が各センターに出来ることを期待したいです。

○山添さんの発題要旨

機関紙「東京YMCA」6/7月号に掲載された会員部運営委員長上田晶平さんの「会員の活性化目指して」のコピーが出席者に配布されて、それに基づいて発題された。

神田の東京Yに入ったときは大企業という感じだった。しかし千葉Yに出向したときは、これがYかと思った。小さい。自転車操業であった。船橋センターでキャンプのサポートをしている会員の存在が初めて目に入った。

「YMCAは会員による運動体である」というのが原点ではあるが、東京Yの財政危機による神田本館売却後の会員制度の変更や東京Yの公益財団法人化などを契機に、会員意識も変化し、原点に近い考え方から「会員とはサービスを受ける主体」であるとい考え方まで幅が広がっている。また、会員の高齢化、中心的な会員の減少も進んでいる。YMCAのCとAの捉えなおし、事業体と

しての東京Yの発展と合わせて会員活動とは何かをはっきりさせて会員の増加、活性化をはかることが課題である。

○話しあいのまとめ

<Aグループ>

メンバー：上妻、福島、小野崇之さん、浅羽
一古くから YMCA と関わっている 2 人、若い頃職員だった 1 人、例会出席 3 回目の方が 1 人という構成でした。

- かつて YMCA は活動の中に会員が具体的に開かれる場がいくつもあった。プログラムに参加する会員もいれば事務作業を手伝う会員など多様な関わり方があり、主事がそのために色々工夫していた。今はほとんど出る幕がない。
- 主事も YMCA 活動にキャリアとして本腰を入れて関わっていた。会員運動を言う前にまず事業経営を一般企業並みにきちんとすることが大切だ。
- 今後の YMCA の役割について、少子高齢化の流れが加速する東京にあって行政がその対策に当たるわけだが、そこに YMCA が自分たちの強みを売り込む努力が必要だ。今のままの YMCA では行政からは相手にされないだろう。
- かつてある総主事からワイズはいらない、と言われた。ショックだった。

(まとめ：浅羽)

<Bグループ>

メンバー：飯島(愛)、飯野、尾内(昌)、尾内(規)
下記の討議を行った。

- YMCA のイメージとして「C」の部分が薄くなっている昨今どのように考えるかに対しては、抵抗はないし強制もしない。
- 会員に関しては見識者、豊富な知識をもつ人が多い強みがある一方、高齢化もあり体力を必要とする支援は難しい弱みもある。
- YMCA のプログラムには出来るだけ参加し募金など経済的な支援をさせて頂くと共にコミュニティセンターとの関わりを推進する。

(まとめ：尾内)

<Cグループ>

メンバー：山添仰さん、中村、大輪、小原

- YMCA 会員とは「こういうものだ」と一言で言えれば良いのですが、いろいろな立場の人達が集まってきています。ここにもワイズ

に入ってから会員になった人、子どもの頃から YMCA で活動していた人、職員として入職してから会員になった人がいて、それぞれの会員像があります。

- ですが、まず YMCA は何のためにあるのか根幹について話し合い、また事業として YMCA の在り方、さらに、地域と各地域センターとの協同で災害スタディなどイベントを持つなど、地域との関りをさらに深め、情報をもっと伝わるように発信していかなければいけないと思いました。

(まとめ：小原)

<Dグループ>

メンバー：本川、篠原、功能、星住、菰刈

- まず私は「今後、社会構造の変化が進むが、その際にボランティアの体力、財力、知力の変化に備えが必要」と切り出したが説明不足で、功能さんからは「ボランティアは変わらない」「YMCA 職員の存在感が見えない、もっと出しゃばるくらいアピールしてほしい」と意見があった。本川さんは「杉並センターで YMCA の会員となり体操教室に参加、その後ワイズに入った」と経緯を語り、篠原さんも「息子の杉並センターでのボランティアを通じてワイズを知り現在がある」と YMCA との関わりを話された。星住さんからは「若者が少ないということをよく聞くが実際は若者は多いと思う。今後、若い人の会員への組織化が必要であるのか、YMCA の知名度アップ、異動の多い中での協働の関わり、各事業におけるデータ引き継ぎの重要性」などの話が出された。これらをポジティブに捉え、YMCA とワイズが一緒になって働くことが出来るかどうか重要なことである。

(まとめ：菰刈)

話し合いの後、菰刈さんから、あずさ部の新クラブの候補として、下記 3 ヶ所が候補に挙がっているとの報告があった。

- 甲府 甲府クラブ 70 周年にちなんで、
- 文京区 昼間開催のクラブとして
- 長野

.....

7月 ヨルダン会

休会にしました

あずさ部「こうふ開府500年記念評議会」

報 告

浅羽俊一郎

7月13日午後1時、赤羽美栄子部長年度の第1回評議会が甲府駅から徒歩10分の岡島ローヤル会館で開催された。銘打って「こうふ開府500年記念評議会」。約80人が出席。

開会式は米長晴信メン（甲府21）の司会、赤羽部長の点鐘で開会。ワイズソングは甲府在住のバイオリニスト、飯田華代子氏がバイオリンで伴奏奉仕。甲府21クラブの荻野清会長の歓迎の挨拶について甲府市長の樋口雄一氏が挨拶し開府500年の意義を熱く語られ退席。評議会プログラムに1519年に武田信虎がこの地に城下町建設に着手したとある。「甲斐の府中」を略して甲府になったとも。（因みに世界史年表には1519年はマゼランが世界一周の船出の年とある。）市長が地元のワイズメンと幼友達であることに触れたが、地方都市ワイズならでの強みだ。

開会式から**評議会**に移行し、司会は書記の金井宏素メン。会成立に必要な定足数34名に対して出席43と委任状9（合計52名）で成立を宣言。赤羽部長は挨拶で、評議会開催を支援した甲府21クラブに感謝し、7月に3クラブで4人の入会があったことを報告。またご自身の部長職をはじめ、過半数のクラブに女性会長が就任していることにあずさ部のユニークさを訴えた。

引き続き議案審議に入る。会計の柳澤岳メンの議案説明で（1）前年度会計決算と（2）今年度予算が承認。なお、菰淵エクステンション委員長から部予算に会員増強への補助があるか、との質問に広瀬直前部長がまず区に確認した上で、次回評議会ですり上げたいとの回答があった。なお（3）前年度第3回善光寺評議会でも協議された部長輪番免除の件について部長から説明があった。武蔵野多摩クラブから宮内直前理事と、一期おいて板村次期理事が出る巡り合わせで、同クラブが部長予定年度をずらす方法では解決できず、一層免除してはどうか、という富士五湖クラブの提案が承認されたことによる。

承認によって現行の部則施行細則を以下の通り付記・部分改定をすることになり、承認された。すなわち第3項として「(3) 部長輪番該当クラブに輪番先送り等で対処できない状況が発生した場



合、評議会の議決により当該クラブの輪番を1周年間免除することができる」と。これに伴い、輪番の順番が変更になり、山手クラブは2026-27年度に部長職が回ってくることになる。

続いて赤羽部長の第1回区役員会報告があった。礼拝献金は継続して東日本震災支援、熊本震災支援へ寄付すること、栗本元理事を委員長に「Change 2022 推進委員会」が発足し、あずさ部から駒田メン・菰淵メンが委員となった。

事業主査と会長の方針説明では短い時間に担当が次々と登壇し、アピールした。大和田CS主査（松本）は「長野県にYMCAを」と。駒田EMC主査（甲府21）は各クラブに2015年の会員数を目標にするよう要請。会長たちの中では小山久恵メン（サンライズ）が昨年度の周年例会、区大会の疲れを癒し「いっしょに」しつつも前進したい、また福島メン（長野）は住職らしく袈裟姿でクラブメンの個性とコネが自クラブの強みと強調。プログラム案内としては標会長（甲府）が来年度の70周年を、長谷川会長（八王子）が今年10月の25周年を、望月喜代子会長（富士五湖）が来年4月の第10回フライングディスク大会をアピール。部エクステンション委員長の菰淵メン（サンライズ）からはあずさ部は200名を目標に増員をしたい、との要請があった。

部監事の金井メンは短く講評し、地域で活躍しているNPOから積極的に学ぶことを提案。

閉会式は浅羽のピアノ伴奏で「あずさの道」、飯田氏のバイオリン伴奏で「YMCAの歌」斉唱。集合写真（標氏指導）も終わり、隣接する大広間の**懇親会**はクラブ枠を外してバラバラに着席。私は甲府21の野々垣メンと歓談。定刻通り解散。斯くしてあずさ部赤羽部長年度がスタートを切りました。山手クラブ出席者：浅羽、尾内。

第 28 回アジア太平洋地域大会 に参加して

上妻英夫

大会テーマ「Action! 前へ進もう」

7月19～21日の3日間、仙台国際センターで開催されました。大会登録者は710人（海外168人）、AYCの28人と合わせて738人とのこと。

まだ梅雨明けしない、曇り空の仙台駅には大会案内のプラカードを持ったマーシャル、YMCAリーダーが、笑顔で出迎えてくれた。教わった地下鉄に乗ると間もなく仙台国際センター駅に到着。構内外階段にYMCAリーダー達が笑顔で案内して下さった。早速受け付けを済ませます。6月以来の再会のワイズに会うと急に笑顔になって、楽しいものでした。

開会まで展示会場を見ると、ここでも又再会を共に喜び合い手を交わす。地元メネットのお抹茶サービス、そして県内1,219名の行方不明の方が一日でも早く帰れるようにと願いを込めた、600体の「かえり雛」の展示に身を引かれました。



12:40 オープニングミュージックは、
仙台南高校音楽部合唱団による
♪「わせねでや」(忘れないで)

2011年3月11日

私達の住む街は 東日本大震災によって
多くのものを失いました♪・・・・
切実な願いを込めて熱唱されました。

13:00 開会式 バナー入場

開会宣言・点鐘

田中博之アジア太平洋地域会長

13:30 国際会長就任式

司式 藤井寛敏元国際会長

新国際会長ジェニファー・ジョーンズさん

(オーストラリア)

North Central Adelaide クラブの方です。

14:40 公開講演会「復興と防災の未来」

一般希望者約70余名の方も参加して聞き入りました。

第1部「東日本大震災からの復興と防災への取り組み」 講師 宮城県知事 村井嘉浩氏

2011年3月11日、南三陸に津波が押し寄せて、今度は引返す。この波状は殆どの県民が始めてであり、恐ろしさ、長時間にわたり、そこにあったものは、全部破壊し、最後には持ち去る津波。それに一週間は全く情報が入らない。沿岸に設備してあったはずの器機が破壊押し流されたのです。情報まで取られた一週間でした。又一ヶ月間はガソリンが届かず、運搬手段停止・宮城県全体が食料・燃料の欠乏、又1万體以上の遺体の火葬も（1日130体）近隣他県に依頼して、約11ヶ月掛かって、引き渡す次第です。種々なる困難が有りましたが、県民一体となり安全な街づくり、安全で安心して働ける場所・集団移転・三陸縦断幹線道路等に力点を置き、行政面での復興に力も注いでも、未曾有の災害には到底カバーする事の出来ない、精神的な痛手に対する心のケアも、続けていかなければなりません。

当県の主な産業の水産業復興も、高齢化進む中、特区として民間が自由参画出来る様、漁業権の改正を、国に法改正に持ち込みました。そして漁民サラリーマンの制度づくり。

また、宮城空港は現状では高額着陸料のため海外の民間機との交渉が困難、国内規定改定交渉を国側に持ち込みました。これ迄はLCC仙台週2便であったが改正に依って現在週19便と10倍になりました。

次に仙台には医学部が東北大のみであったが、震災を機に医学部新設を要請した結果、私立東北薬科大学が、2016年、東北医科薬科大学として開校する事が出来ました。それで同県では奨学金支給と同時に、10年間30名の医師が県内医療従事する事になりました。

県の上下水道事業について一体化して民間に移管し、新しい広域支援体制を整備して迅速に対応出来るようになりました。

また野球場に宮城県広域防災拠点基本設計等企画中です。何れの計画も全国のモデルと成り得る様、街づくりに県民とも推進しております。

第2部「あなたと子供を災害から守る方法」

講師 危機管理教育研究所代表 国崎信江氏
自分の命は自分で守る、其れには日頃からハザードマップを見ておく必要がある。

特に向こう30年以内に、大きな地震が発生する話した後、1ヶ月後にインドネシア・アチエに津波の発生、現地で調査等に関わりました処、行方

不明者22万7千余人、其れで現地人々から防災先進国？と言われましたが、この様に大きな被害が出たのは当地は地震・津波に遭った事が無い地域であった為、津波に関する警報や注意は余りされず、人的被害が拡大した。まだまだ研究の余地が有ると思います。被害を最小限にするには、如何にして強い家に住むか、又地震が来たらどの様にして身体を守るか、良く机の下に身を隠すとありましたが、其れより先ず外に出る事と話されました。また家具等の固定、子供をダンゴ虫状に、おなかに抱えて丸くなる、防災チョッキ着用等、日頃から注意する事が大切ではないか、と話しました。みんな熱心に聞いていました。

ワイズ・YMCAアワー

東日本大震災復興

「ワイズと共に 仙台YMCA」

仙台YMCA総主事 村井信夫氏

被災後はYMCAのスタッフが、うちひしがれていた。その様なときに、元気を与えてくれたのが、全国のワイズメンからの支援だった。そこから、仙台YMCAは立ち上がることが出来た。この気持ちは今も忘れる事がない。

「各地での災害支援レポート」

日本YMCA同盟 主任主事光永尚生氏

熊本地震後のワイズの取組みとして、避難所となった体育館に、避難者が生活しやすいように、カーテンで間仕切りを作った。この力は、ワイズならではの素晴らしいものであった。

広島YMCA総主事からの、昨年の西日本豪雨災害支援に対する、お礼のメッセージが披露されました。

18:30 直前会長主催晩餐会 (IPAPナイト)
開演と同時に、さとう宗幸さんのミニコンサート



ト、懐かしい歌に魅了された。見事な声量で会場を沸かせてくれましてありがとう。テーブルも身近な方々で楽しく、素晴らしい晩餐会でした。

2日目 エクスカーション 3号コース

震災に耐えた松島を巡るコース（東松島～語り部クルーズ松島）308名6台のバスに分乗して一路目的地に向かう。途中車内で自己紹介。私のお隣にはベトナムから来たレーミン・タン君、仙台YMCA専門学校の1年生日本語も堪能で、ハンサムの青年でした。学校に大会ボランティアの話がきて、友人と応募したとの事でした。港到着、暫く待って乗船、前方に薄日指す波静かな此の美しい島々に、8年前あの荒れ狂った海とは思えない景色でした。山から見下ろす松島の島々も、古代から詠



まれた景勝も変わろうとせずに居るのは良いことである。車は野蒜に到着。旧駅舎は震災に破壊されず一時町民の集会場として使用、その後復興伝承館として、当時の資料を所狭しと、展示してありました。海岸の間近に、3メートル70のモニュメントと、氏名の分かった方の氏名が書き込まれ、津波を忘れない様みんなで助け合っている様子が伺われる。多分賑やか町であった野蒜も、これからと思うが真新しい家屋が数件のみであり、現在周辺の町村合併の新松島市として広域街に発展しています。

1000余名方の死亡と、家屋全部流失し

た野蒜町も只1軒残ったのが、此のJR駅舎で、当時は集会室等に解放されたとの事です。当時列車も停車していてそれが津波でL字型に曲がり脱線、そのため線路迄が折曲げられた姿もありました。その線路もホーム共静かに眠っておりました。



18:30 アジア会長主催晩餐会 (APナイト)

歓迎の挨拶 アジア会長 田中博之氏

挨拶 西日本区理事 戸所岩雄氏

祝辞韓国地区会長 キム・サン・チャン氏

宴たけなわ・各区のパフォーマンス等盛り上り、明日の再会を楽しみに散会しました。

・山手クラブ参加者：尾内昌吉、尾内規子、飯野毅与志、上妻英夫、米沢さつき（飯野さん紹介）

YMCAニュース

1. 山手センター夏季休館のお知らせ

8月26日(月)～31日(土)は夏季休館となります。

2. 平和のパネル展

—広島原爆資料館所有— サダコと折り鶴」展示 (8/1～8/9)

広島・長崎の原爆記念日を迎える8月に今一度平和の大切さを考えたいと、「原爆の子の像」のモデルにもなった佐々木禎子さんの写真展を開催します。

【日にち】

8月1日(木) 13:00～8月9日(金) 12:00
*期間中は9:00～21:00の間、入場自由

【会場】東陽町センター

*佐々木禎子さんは、2歳で被爆し12歳で亡くなりました。「原爆の子の像」は1958年、禎子さんのように被爆で亡くなった子どもたちのため、当時の広島YMCA会員や同級生などの呼びかけで平和記念公園内に建てられたもの。禎子さんが病床で回復を願って鶴を折り続けたことから、今年もYMCAは全国各地で折り鶴プロジェクトを行ない、8月6日に献納します。

3. しんじゅく防災フェスタ

9月1日(日) 11時～16時 戸山公園で今年も開催されます。新宿区主催の大規模な防災イベントに協力して4年目になります。

ぜひご参加ください。

4. 今後の予定

8月24日 YMCA夏祭り(東陽町センター)
9月1日 しんじゅく防災フェスタ(戸山公園)
9月14日 国際協力募金@新宿駅周辺
9月23日 チャリティーラン
10月27日 山手バザー(秋まつり)

(星住秀一)



9月例会のお知らせ

9月17日(火)の例会には、

あずさ部長 赤羽美栄子さん(松本)が公式訪問でご出席くださいます。

そして、卓話は

元東日本区理事の利根川恵子さん(川越)をお招きして、多文化共生事業にご自身が取り組まれたご体験をお話しいたします。

どうぞ、ご期待ください。

おたより

<浅羽俊一郎さん> 仙台での大会、上妻さん、尾内さんご夫妻、飯野さんお疲れ様でした。

所要のため、ジュネーブに来ています。日本に負けないくらい、こちら暑いです。湿度がないのは助かりますが、一般住宅はまずエアコンもなく、扇風機や団扇で凌いでいます。スーパーではハイネケンの缶がよく出ているようです。

近年の国際情勢に不安を感じませんか。イザヤ書から今月の聖句を選びました。

それでは皆さまご自愛ください。

<上妻英夫さん> 「明日大暑 街路樹止まる赤とんぼ 赤とんぼも長梅雨の寒さで秋と思つて出て来たのですね。虫は敏感です。

.....

編集後記

2019-20年度のスタート月、7月、山手の例会では「会員活動」について熱気ある話し合いがもたれました。また、甲府で開催されたあずさ部「こうふ開府500年記念評議会」、仙台で開催された「アジア太平洋地域大会」も、それぞれ大いに盛り上がりました。それらの報告で今号は7ページ、読みでがあります。

アジア大会の詳しい報告を書いてくださった上妻さんは1930年生れ、そのお元気には頭が下がります。

猛暑が続いています。お互いに体調管理にも気を配りながら、この夏を乗り切りましょう。

(F・K)